

# 四川大学

## 2006 年攻读硕士学位研究生入学考试试题

3

考试科目：日语

科目代码：223#

适用专业：英语语言文学 外国语言学及应用语言学之

1.2.3 方向

(试题共 6 页)

(答案必须写在答题纸上, 写在试题上不给分)

問題 I 次の文の下線をつけた言葉の読み方を解答用紙に書きなさい。

(1 点 × 10 = 10 点)

問 1 砂漠の植物は体内に水分をためておくことができる。

問 2 健康のためには早寝早起きをし、生活リズムを守ることが大切だ。

問 3 旅の支度には、活動的で気軽に着られるものを一枚備えたい。

問題 II 次の文の下線をつけた言葉を漢字で解答用紙に書きなさい。

(1 点 × 10 = 10 点)

問 1 あいてのたちばをよく考えてこうどうしたほうがいい。

問 2 いつもようふくですが、とくべつな日はきものを着る。

問 3 ゆきがつもって、かいだんがすべりやすいので、ちゅういしてください。

問題 III 次の文の下線の部分に入れるのに最も適当なものを、1、2、3、4 から一つ選びなさい。

(1 点 × 15 = 15 点)

(1) 忙しい母の\_\_\_\_毎日そうじしています。

1 かわりに      2 てつだう      3 はんたいに      4 おかげ

(2) パスポートを\_\_\_\_旅行できませんでした。

1 みつけて      2 なくして      3 なくなって      4 わかれて

(3) 今日はサッカーの試合がみたいから、\_\_\_\_はやく帰るつもりだ。

1 なかなか      2 ほとんど      3 すっかり      4 なるべく

(4) 高速道路に車が\_\_\_\_ならんで、すこしも動かなかった。

1 しっかり      2 ぎっしり      3 すっきり      4 がっしり

(5) どんなに頑張っても、\_\_\_\_失敗するんだから、もうやめよう。

1 どうせ      2 どうも      3 とうとう      4 どうやら

- (6) 雨にぬれて歩いていたら、\_\_\_\_かかった人がかさに入れてくれた。  
 1 通り                      2 行き                      3 歩き                      4 飛び
- (7) あの子は、\_\_\_\_六歳だそうだ。ずいぶん大人っぽい話し方をするね。  
 1 なにより                      2 なんて                      3 なんと                      4 なんだか
- (8) このレストランの料理は、材料もよく\_\_\_\_されていて、素晴らしい。  
 1 吟味                      2 検査                      3 調査                      4 確信
- (9) 「\_\_\_\_。どなたか いらっしやいませんか。」 「はい、今行きます。」  
 1 ごめんください                      2 ただいま  
 3 いってらっしゃい                      4 いらっしやいませ
- (10) この料理は\_\_\_\_して老人向きの食べ物だ。  
 1 こってり                      2 あっさり                      3 どっさり                      4 しっかり
- (11) 線路に\_\_\_\_、もうしばらくまっすぐ行ってください。  
 1 そそいで                      2 そらして                      3 そって                      4 そむいて
- (12) 慌てず\_\_\_\_した気分で勉強すると、よく覚えられる。  
 1 ハッスル                      2 リラックス                      3 ストレス                      4 スマート
- (13) 掃除をして汗をかいたので、シャワーを浴びて\_\_\_\_した。  
 1 しっとり                      2 さっぱり                      3 そっくり                      4 すんなり
- (14) いろいろな問題が重なって、計画はなかなか\_\_\_\_しない。  
 1 増進                      2 進展                      3 促進                      4 発展
- (15) 書類がたまったので、新しい\_\_\_\_を買った。  
 1 フィルター                      2 フィルム                      3 フォーム                      4 ファイル

問題IV 次の文の下線の部分に入れるのに最も適当なものを、1、2、3、4から一つ選びなさい。 (1点×15=15点)

- (1) 電車の駅までバス\_\_\_\_行きましょう。  
 1 に                      2 で                      3 へ                      4 を
- (2) みんな帰りました。教室に\_\_\_\_いません。  
 1 だれが                      2 だれか                      3 だれでも                      4 だれも
- (3) 忙しいですから、明日8時\_\_\_\_来てください。  
 1 まで                      2 あいだ                      3 までに                      4 あいだに
- (4) 1時間も待った\_\_\_\_田中さんは来ませんでした。  
 1 ので                      2 のに                      3 から                      4 なら
- (5) 山田さんにここへ来る\_\_\_\_言ってください。  
 1 ように                      2 ことに                      3 そうに                      4 のに
- (6) 彼は国に帰った\_\_\_\_手紙もくれない。  
 1 ばかり                      2 きり                      3 たびに                      4 ながら
- (7) 木村さんの発言を\_\_\_\_いろいろな意見が発表された。  
 1 関して                      2 ばかりに                      3 皮切りに                      4 至り



00 してしまったことを後になって残念に思う気持ち。

1 心配

2 後悔

3 不安

4 満足

問題VI 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは1・2・3・4から最も適当なものを一つ選びなさい。(2点×10=20点)

1. 動物界を見渡すと、ちっとも休息しないかのような生き物がある。例えば、海洋を泳ぎ続けるマグロやイルカ、海洋の上空を飛び続けるアホウドリやカモメなどがそうである。少なくともこれらの動物には、①睡眠が不必要に見える。生物には例外が必ず存在するという原則がある以上、例外的な無眠動物が実在するかもしれない。

(②)、無眠動物の候補のうち、脳波を観測できる哺乳類や鳥類をしらべた結果、意外な事実がわかった。これらの動物は、左右の脳半球を交互に眠らせているのだ。だから、見かけはまったく休息しない行動様式を保ちながら、脳内では(③)。

これを「半球睡眠」という。半球睡眠は、水中あるいは空中に長期間滞留するための、特殊な技術として開発された眠りであろう。

見晴らしいよい草原に住む草食獣も、見かけはほとんど眠らない。草は栄養価が低いから、十分なエネルギーを得るためには大量に食べる必要があり、時間がかかる。また、隠れる場所のない草原では、いつ肉食獣に襲われるともかぎらぬ危険と隣り合わせだ。それゆえ、④睡眠を長くまとめてとることは不可能となる。

こうした動物の脳波を観測してみると、「うとうと状態」という特殊な休息法があることが分かった。なかば覚醒、なかば睡眠という状態で、筋肉の緊張を緩めることなく睡眠を実行しているのだ。

「半球睡眠」にせよ、「うとうと状態」にせよ、こうまでしてでも眠りを確保するのは、睡眠が決して無用ではなく、生存上、極めて重要な役割があるから、と考えなければならないことになる。

そんなわけで、一見して無眠状態が連続していても、その状況をよくよく分析すると、実際は何らかの方式で睡眠機能が補填されている。だから、⑤完全な意味での無眠は存在しない。睡眠が短いか長い、おもてに表れないかだけの差に過ぎない。

(井上昌次郎「睡眠の技術」KKベストセラーズより)

問1 下線①「睡眠が不必要に見える」のはなぜか。

- 1 例外的な無眠動物が実在するから。
- 2 海や空では動き続けなければならないから。
- 3 行動様式に休息が見られないから。
- 4 睡眠が重要ではないから。

問2 (②)に入れる言葉はどれか。

- 1 それに② ③しかも 2 むしろ 3 だが 4

問3 (③)に入れる文はどれか。

- 1 睡眠が不必要に思われる 2 睡眠に至っていない  
3 睡眠が実行されている 4 睡眠が表れない

問4 下線④「睡眠を長くまとめてとることは不可能となる」のはなぜか。

- 1 見かけはほとんど眠らないから。  
2 草をたくさん食べるのに、長い時間が必要だから。  
3 眠ると多くのエネルギーを使うから。  
4 いつも筋肉の緊張を緩めているから。

問5 下線⑤「完全な意味での無眠は存在しない」と言えるのはなぜか。

- 1 なかまで交代に休息するから。  
2 水中や空中に長期間留まっているから。  
3 無眠状態は連続していて分析できないから。  
4 眠っていないようでも脳は眠っている状態になっているから。

2. 私にとっては、往復二時間ほど費やす満員電車の中が、自分に戻る絶好のチャンスだ。多くの人々は満員電車が苦痛だというのが、わたしは①あまり苦痛にならない。電話は来ないし、人は話しかけないし、ゆっくりと自分のことを考えて、これから何をしたいのか、自分なりの計画を練ったりする。

「孤独」という言葉から孤立感を連想する人が多い。(③)、「孤独」と「孤立」は少し違う。「孤独」には人生から切り離されたという寂しさが無い。「孤立」には他人から拒否されて一人ぼっちという寂しさが付き纏う。私がいうのは前者のほうである。

また、「④」は自分をゆっくり取り戻せるので、人恋しさも出てきて、人と交わることが楽しくなっていく。いつでもどこでも年中人と交わっていたら、人につきあうのがいやになる。適度に(⑤)の時間をもつことは非常に大事なことである。

(國分康孝「幸せをつかむ心理学」PHP文庫より)

問1 ①「あまり苦痛にならない」のはなぜか。

- 1 電車の中では「孤独」になれるから。  
2 電車の中では「孤立」するから。  
3 人と一緒にいると安心するから。  
4 他の人が苦しそうだから。

問2 筆者が考える、人との上手な付き合い方はどれか。

- 1 どんなときでも、人と交わるようにする。  
2 どんなときでも、人と交わらないで自分の時間を大切にする。  
3 自分の気分がいいときに、人と交わる。  
4 人と交わらない時間も作って、大切にする。

問3 (③)に入る言葉はどれか。

- |     |               |   |     |   |      |   |     |
|-----|---------------|---|-----|---|------|---|-----|
| 1   | それに           | 2 | だから | 3 | そのうえ | 4 | しかし |
| 問 4 | 「④」に入る言葉はどれか。 |   |     |   |      |   |     |
| 1   | 孤独            | 2 | 孤立  | 3 | 独立   | 4 | 自立  |
| 問 5 | ⑤に入る言葉はどれか。   |   |     |   |      |   |     |
| 1   | 独立            | 2 | 自立  | 3 | 孤独   | 4 | 孤立  |

問題Ⅶ 次の文章を中国語に訳しなさい。(20点)

節分が過ぎ、今日はもう立春です。しかし、暦のうえでは春だというのに、雪が降り、氷が張り、今年は例年になく厳しい寒さが続き、春は遠いようです。

その寒さというのも、よく考えてみますと、私たちの日常生活のあり方について、一つの教訓を与えているように思われます。大げさに言えば、現代文明に対する警告であり、危険信号が出されているとも言えそうです。

かつて人間は、自然の厳しさに耐え、それに挑戦し、自然を征服して、現代の文明を築きあげてきたわけですが、暖房の設備が完備し、防寒服の衣類が普及し、さらに、乗り物の発達や地下道の建設などによって、その自然の厳しさを忘れてしまい、極めて日常的な自然現象にも、うろたえ、悲鳴をあげ、驚きの声をあげているような姿が、あちこちに目立ちます。

人々は、ちょっと雪が降ると滑って転び、中には負傷するというケースもあって、自然の中を、まともに歩くことさえも出来なくなっています。

少し雪が降ると交通機関のダイヤは乱れ、多くの人々が、寒さの中で震えあがっているという姿を生んでいます。わずか20センチ程度の雪が降っても「食料品の買い入れができない」とか、「雪のために、生鮮食料品の入荷がない」と悲鳴をあげ、生活のリズムを狂わされて困っている人もあります。

冬に雪が降り、氷が張るということは、これは当然すぎるほど当然なことなのです。そのことを計算に入れて生きるということも、これもまた当然のことですが、人間は自然に適応して生きるということを忘れつつある、というよりも、自然に対して挑戦する意欲を失い、自然の脅威にさらされていると言っても、いいのかもしれませんが。

豊かさと便利さに慣れきってしまった私たちは、もしも、社会事情の思わぬ急な変動や、自然現象の異変にぶつかった場合、たちまちパニック状態に悩まされることになるでしょう。

自然に適応し、挑戦する意欲を失ったなら、それは人類の危機と言わなければなりません。雪や厳しい寒さは、現代文明に対する一つの危険信号でもあるのです。